

全木連時報

12月25日(土曜日)
(第561号) 毎月25日発行
平成16年(2004年)

発行所
社団法人 **全国木材組合連合会**
代表者 後藤隆一
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215
URL <http://www.zenmoku.jp>



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。

全木連 全木協連 理事会・臨時総会開く

中間決算、役員補充など承認決定

全木連、全木協連は、十一月十八日、東京虎ノ門パス
トラルで、それぞれ理事会、臨時総会を開き、平成十六
年度補正予算、役員補充など所定の議案をすべて承認・
決定した。このほか、中間決算見込み、表彰規程の一部
改正、全木連では、格付業務規程の一部改正、全木協連
では、副会長の補充選任などを行った。また、引き続き、
政治連盟の常任委員会を開き、役員補充を行ったほか、
活動状況を報告した。

全木連理事会・臨時総会

全木連の会議は午後一時より開
始。冒頭、この秋の叙勲・褒章受
章者を事務局より紹介。次いで、
庄司会長が挨拶し、環境税の創設
とその税収による森林整備ととも
に木材需要拡大対策が位置付けら
れるようにがんばりたいと強調し
た。

その後、庄司会長を議長として
議事が進められ、最初に総会事項
を審議した。
まず、平成十六年度補正予算を
事務局説明を受けて原案どおり承
認・決定した。役員補充は、本年
五月の総会以降、各会団の役員異
動に伴うもので、次のとおり決定
した。
理事 〃 尾山篤治(澤田豊・北
海道)、打越芳男(佐川清一・茨城)、
齋藤敏(若松厚宏・長野)、鳥居治
夫(阪田良之助・滋賀)、茶谷孝一
(竹内茂行・京都)、越井健(飯田
正夫・大阪)、野村昌弘(竹内弘・
兵庫)、横田欽一郎(野上幸男・宮
崎)

理事会では、平成十六年度中間
決算見込みを承認。
次に、表彰規程の一部改正を承
認決定した。
次いで、格付業務規程の一部改
正を承認決定した。

このほか、以下の二十三項目の
報告を行い、質疑を経て、会議を
終了した。

新潟県中越地震への対応 小
型廃棄物焼却炉に係る処理基準の
見直し ダイオキシン類の簡易測
定法導入の検討状況 木造住宅等
関連法規に関する住宅局担当官と
の意見交換会 林政基本問題小委
員会における全木連会長発言要旨
環境税創設に向けての今後の取
組み JAS制度の見直しの方向
製材等JAS登録格付について
消費技術センターが実施した監査
結果に対する是正措置への対応
優良木質建材等認証(AQ認証)

全木協連理事会・臨時総会

全木協連の会議は、全木連の会
議に引き続き、午後三時より開始。
まず、並木会長が挨拶し、全木
協連の上期の事業は計画どおりに
実行できていると総括のうえ、下
期にむけての会員の協力を要請し
た。その後、並木会長が議長とな
り、議事を進行した。

- 目次
- 一面 全木連・全木協連理事会・臨時総会開き中間決算・役員補充など承認決定
- 二面 新潟中越地震に対応 環境税で市民集会 農林水産祭
- 三面 天皇杯に西村木材店 国産材利用の国民運動を提唱
- 四面 景況調査 自主表示の事前登録受付開始

制度の改正 輸出入木材梱包材の
取扱いと今後の動向 日本林業団
体・アメリカ木材関係者会合結果
概要 WTO及びFTAの現状
グリーン購入法への対応 木材自
主表示制度の概要 平成十七年度
林野庁予算概算要求の概要 平成
十七年度林業関係税制改正要望
三位一体改革 木材産業への外国
人研修生の受け入れ 第三十九回
全国木材産業振興大会における宣
言決議への対応状況 農林水産祭
天皇杯受賞 平成十六年度版全木
連PRポスター購入 第四十回全
国木材産業振興大会の開催 平成
十七年度全国会議日程(案)について

茨城)・齋藤敏(若松厚宏・長野)・城山泰一(竹内茂行・京都)・野村昌弘(竹内弘・兵庫)・中村宗良(安野次雄・鳥根)・門田成耕(門那國雄・高知)・横田欽一郎(野上幸男・宮崎)・伊波徹(喜屋武盛榮・沖縄)

理事會事項では、平成十六年度中間事業報告 平成十六年度決算見込 中型グループ共済保険加入促進の取組み強化 表彰規程の一部改正について、それぞれ順次事務局より報告のうえ、承認決定した。

次いで、先の役員補充に関連して、次のとおり副会長を選任した。

副会長 横田欽一郎

このほか、新潟中越地震への対応 第四十回全国木材産業振興大会の開催地 平成十七年度全国会議日程案について報告し、会議を終了した。

新潟県中越地震に見舞金贈呈

復興用木材・資材の供給に協力要請

十月二十三日夕刻に発生した「新潟県中越地震」は、同県中越地方に大きな被害をもたらした。

この地震による被害は、十一月十四日現在で、死者四十名、負傷者二千七百六十三名に達し、道路などのライフラインも大きな被害を受けている。住宅被害では全壊が一千二百五十八棟、半壊二千五百五十一棟、一部破損が一万九千四百四十六棟、非住宅被害は六千四百九十八棟であり、一時は避難者が十万人を超えた。被災地は豪雪地帯であり、これから本格的な冬に向かうので、早急な復旧対策が必要となっている。

このような中で、全木連としては、以下のように林野庁の協力要請に対応するとともに、被災者に見舞金を贈呈した。

一部改正について、それぞれ順次事務局より報告のうえ、承認決定した。

次いで、先の役員補充に関連して、次のとおり副会長を選任した。

副会長 横田欽一郎

このほか、新潟中越地震への対応 第四十回全国木材産業振興大会の開催地 平成十七年度全国会議日程案について報告し、会議を終了した。

一、震災復興対策用木質資材の供給確保について

林野庁からの協力要請もあり、都道府県木連会長に対し、応急対応及び復興対策に必要な木質資材、特に仮設住宅の建設に必要な杭丸太等の生産・流通に携わる組合員に対し、優先供給等適切な対応を奨励すること、価格の安定を図るため、資材の買い占め等需給と価格に関する不当な行為の発生を未然に防止すること、万が一、上記について問題が生じた場合等には、速やかに林野庁木材課に連絡することの協力を要請した。

二、見舞金の贈呈

全木連、全木協連は、会員の協力を得て、十一月二日、被災者の方々へのお見舞金として、二百万

円を「新潟県災害対策本部」に贈呈した。

三、相談窓口の設置を要請

被災地の新潟県中越地域に近い

環境税の創設で森林整備を

実現を求めて市民集会開く

本紙十月号で予告した「地球温暖化を考える緊急市民集会イン東京」環境税でみどり豊かな森林を取り戻そうが、十一月九日、東京の日比谷野外音楽堂で、参加



本紙十月号で予告した「地球温暖化を考える緊急市民集会イン東京」環境税でみどり豊かな森林を取り戻そうが、十一月九日、東京の日比谷野外音楽堂で、参加者二千百名を集めて開かれた。

者二千百名を集めて開かれた。地球温暖化防止のための二酸化炭素の削減に、森林の役割が期待されているが、林業・木材産業が不振に陥っていることから、目標の達成が危ぶまれている。

このため、環境税を創設し、税収の一部を森林対策に活用することによって、京都議定書に基づく国際約束を達成しようというもの。

大会は、綿貫民輔大会会長(衆議院議員)の挨拶に続き、来賓として出席した各国会議員(自由民主党林政調査会長 二田孝治衆議院議員、自由民主党環境基本問題調査会長 自見庄三郎衆議院議員、

周辺の六県木連に対して、被災地等から復興に必要な木材・木質資材の供給要請がなされた場合に対応するための相談窓口を県木連に

設置するよう依頼した。依頼先は、秋田、福島、山形、栃木、群馬、長野の六県木連。

民主党ネクスト農林水産大臣 鮫島宗明衆議院議員、公明党副幹事長兼環境部会長 石田祝稔衆議院議員)から激励の挨拶があった。

大会実行委員長の飯塚昌男全国森林組合連合会会長が情勢報告を行った。

パネルディスカッションに移り、熊崎實・岐阜県立森林文化アカデミー学長をコーディネーターに、岡本均・静岡県春野町森林組合長、見城美枝子・青森大学教授、木平勇吉・日本大学大学院教授、高橋國雄・宮城県七ヶ宿町長、長宏行・オイスカ地域第三部長、浜田英宏・高知県議会議員の各氏から、意見表明があった。

最後に、大会宣言を秋山智英・日本林業協会会長が読み上げ、庄司橙太郎全木連会長の音頭で全会一致の採択を確認した。

農林水産祭で木の良さをPR

親子日曜大工教室は例年通りの盛況

農林水産省と日本農林漁業振興会主催の平成十六年度(第四十三回)農林水産祭「実りのフェスティバル」が十一月十九日(金)、二十

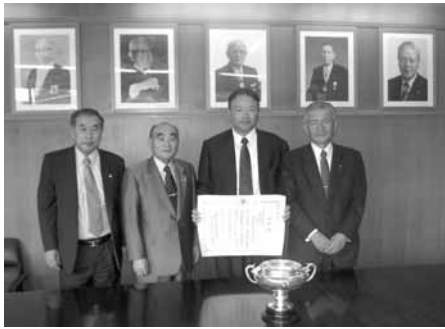
(ビックサイト)で開催された。

農林水産祭は、農林水産業者と一般国民が共に収穫を喜び、農林水産業に対する理解と関心を高め、農林水産物の消費拡大を図るため、

都道府県、中央・地方の農林水産団体が協力して毎年十一月に開催しているもの。

会場には、「天皇杯コーナー」「政府特別展示コーナー」「JASコーナー」等の特設コーナーのほか、都道府県、農林水産団体による食料品などの展示・即売が行われた。

林産部門では、全木連が世話役となり、林業・木材業関係団体等



天皇杯の前に(右から西村木材店・西村社長、西村副社長、全木連庄司会長、後藤副会長、全木連事務所)

平成十六年度の第四十三回農林水産祭林産部門で、三重県松阪市の(株)西村木材店が天皇杯を受賞した。



親子で楽しく日曜大工教室

の協力を得て、木材利用推進のPR展示等を行った。会場では、パネル展示の配付、パネル展示の

西村木材店(三重県)が天皇杯を受賞

第三十一回JAS製材品普及推進展示会

第三十一回JAS製材品普及推進展示会で、農林水産大臣賞を受賞し、その実績が評価されたもの。林産部門のJAS展示会受賞者の天皇杯受賞は、これで五社目になる。受賞の式典は、十一月二十三日に東京で行われた。

これは、同社が平成十五年度のJASのAタイプ工場として、JASの推進につとめるとともに、JAS展示会では、八年連続して農林水産大臣賞を受賞している。特に乾燥材には意欲的な取り組みを続けている。また、労働安全にも積極的に取り組んでおり、労働災害は発生していない。製材端材、樹皮の活用でも成果をあげている。

ほか、親子日曜大工教室などの催し物を行い、例年通りの人気であった。

〔親子日曜大工教室〕
小イスや小物入れなどを来場者が製作。日曜大工クラブ会員の指導を受けながら楽しく作成していた。毎年参加する人も多く、人気が高い催し物として定着している。〔系鋸工作教室〕
関東森林管理局東京事務所の指導で板に描いた動物の画を電動糸鋸でくり抜いて製作するもの。こちらも順番待ちの人気であった。〔キノコのプレゼント〕
日本特用林産振興会の協力によ

り、竹細工作りやキノコのプレゼントが行われた。こちらも盛況であった。

日本の森を育てる木づかい円卓会議

国産材利用の国民運動を提唱

木材産業界に、本気。を求める

が提言書

参加団体「全国木材組合連合会、全国森林組合連合会、全国天然木化粧合板工業協同組合連合

会、全国木材防虫JAS協議会、全国木造住宅機械プレカット協会、日本合板検査会、日本合板工業組合連合会、日本集成材工業協同組合、日本住宅・木材技術センター、日本特用林産振興会、日本複合床

日本の森を育てる木づかい円卓会議(議長「川井秀一・京都大学教授・日本木材学会会長」)はこのほど、国産材利用の基本理念をまとめた提言書「木づかいのススメ」日本で育てた木を使おう、日本の森を元気にするために、それが持続可能な暮らしを実現する」を公表した。

同会議は、日本木材学会が提唱して設置。消費者の視点で国産材の利用推進方策を検討するために、会議のメンバーにいわゆる「作り手」たる林業・木材産業界の関係者はあえて加えていない。メンバー同士も直接の利害関係はない。提言書では、国産材利用を進める上で、消費者のニーズ、視点は何よりも重要であり、「作り手」サイドにおいても本提言を真摯に受け止めてほしいと訴えている。

構成は、I 国産材利用の基本理念、II 国産材利用の拡大に向けた取組、III まとめ。

I 章では、国産材利用の意義を述べるとともに、新しい価値観の形成として、現行の市場経済システムのもとで国産材利用を進めるには、国産材製品の生産者、販売者、購入者の三者が、それぞれの立場から協力・連携することが重要だと指摘している。そのうえで、作り手には、一層の産業構造の改革を進めて消費者ニーズに応じた国産材製品の生産に取り組みむとともに、コストパフォーマンスを向上させ、市場が求める商品の確かな供給に努めるよう求める一方、消費者にも、ただ安いものを求めるのではなく、グリーンコンシューマーとしての自覚と責任を求めている。

II 章では、消費者(個人・企業)への働きかけ、普及・広報活動の重要性を述べている。

章の冒頭、国産材利用を推進しようとするときに、消費者のニーズがないから作らない、売らない、

「身近にないし高いから買わない」といった言い訳ばかりでは「何も変化は起こらない」と現状を批判。大切なことは、国産材を使おう」と様々な立場の人が考え、それを小さくても良いから行動に移していくことである——と述べている。

また、行政への提言も行い、川上だけでなく、川下にも焦点をあてる必要性を説いている。

以上を踏まえ、次の五つのポイントを「もっとやってみよう」とまとめている。

一、国産材製品を使うと、日本の森林は元気になる。もっと使ってみよう。まずはカートカンとプランターカバーから

二、国や地方自治体は、もっと本気になって国産材利用を実践しよう。まずは徹底的な国産材利用と積極的な情報発信から

三、企業は、国産材を使おうともっと真剣に考えよう。まずは紙製品の見直しとオフィスへの木製品の導入から

四、国産材を積極的に使うことについて、NGOや消費者団体はお互いにもっと協力し合おう。

五、そして、家族で一緒にもっと国産材に触れよう。まずは日曜大工や子供の木工から

景況調査 = 全木協

11月分集計表 ()内は実数

【流通部門】

モニター数97 回答数76 回収率78%

当月の状況

販売量	増加24% (18)	変わらず59% (45)	減少17% (13)
仕入量	増加22% (17)	変わらず52% (39)	減少26% (20)
販売価格	上昇4% (3)	変わらず89% (68)	下降7% (5)
仕入価格	上昇16% (12)	変わらず81% (62)	下降3% (2)

来月の見通し

販売量	増加9% (7)	変わらず53% (40)	減少38% (29)
仕入量	増加8% (6)	変わらず53% (40)	減少39% (30)
販売価格	上昇3% (2)	変わらず91% (69)	下降6% (5)
仕入価格	上昇5% (4)	変わらず84% (64)	下降11% (8)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	8% (5)	72% (46)	20% (13)
南洋材	8% (5)	77% (46)	15% (9)
北洋材	7% (4)	75% (46)	18% (11)
国産材	10% (6)	71% (45)	19% (12)
建材	5% (3)	78% (47)	17% (10)

乾燥材取引の頻度	増加 39% (28)	変わらず 61% (43)	減少 0% (0)
----------	----------------	------------------	--------------

【製造部門】

モニター数97 回答数75 回収率77%

当月の状況

販売量	増加25% (19)	変わらず48% (36)	減少27% (20)
仕入量	増加25% (19)	変わらず48% (36)	減少27% (20)
販売価格	上昇7% (5)	変わらず85% (64)	下降8% (6)
仕入価格	上昇16% (12)	変わらず71% (53)	下降13% (10)

来月の見通し

販売量	増加7% (5)	変わらず58% (44)	減少35% (26)
仕入量	増加11% (8)	変わらず56% (42)	減少33% (25)
販売価格	上昇4% (3)	変わらず83% (62)	下降13% (10)
仕入価格	上昇5% (4)	変わらず72% (54)	下降23% (17)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	13% (5)	65% (24)	22% (8)
南洋材	4% (1)	83% (20)	13% (3)
北洋材	9% (3)	73% (25)	18% (6)
国産材	9% (5)	53% (29)	38% (21)

プレカットの動向

受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内 59% (13)	1ヵ月 36% (8)	1ヵ月以上 5% (1)
---------------	-------------------	----------------	-----------------

木材自主表示のための
事前登録受付開始

全木連が昨年来、検討していた木材の原産地などを表示するシステムが動き始める。
その推進母体としての「木材表示推進協議会」の設立に向け、入会希望者の事前登録の受付が開始された。
表示すべき事項は、樹種、原産地、加工の種類（ムク材など）、会員番号など（表示例参照）。
現在、さまざまな表示制度があるが、そこで表示されていないものを自主的に表示するもの。
自主表示とはいっても、信頼性を確保するため、ルールを定め、表示を行う者は、資格審査を経て、同協議会の会員となる。
事前登録は、あくまでも協議会設立への準備段階。事前登録していても設立後の本登録には、資格審査が必要。ただし、事前登録者は入会金が半額になる。
入会金は、一口二万円（一口以上）、年会費一万二千元、ロゴマーク使用料は一㎡二百円。別に団体会員制もある。詳しくは全木連へ。

表示例

ムク	樹種：スギ（人工林）
	原産地：国産（埼玉西川）
	木材表示推進協議会
No. 000002	http://www.zenmoku.jp/id

林業・木材産業発展のために

お役に立ちます 林業・木材産業信用保証

平成16年6月からスタート！

「グリーンサポート3000」

一定の要件を満たした保証申込みにスピーディに応える無担保保証です。

独立行政法人 農林漁業信用基金（林業部門）

副理事長 加藤 鐵夫

〒101-8506 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階

TEL 03-3294-5581 FAX 03-3294-5595

URL <http://www.affcf.com/forestry>